

2024はんだふれあい産業まつり 実施報告

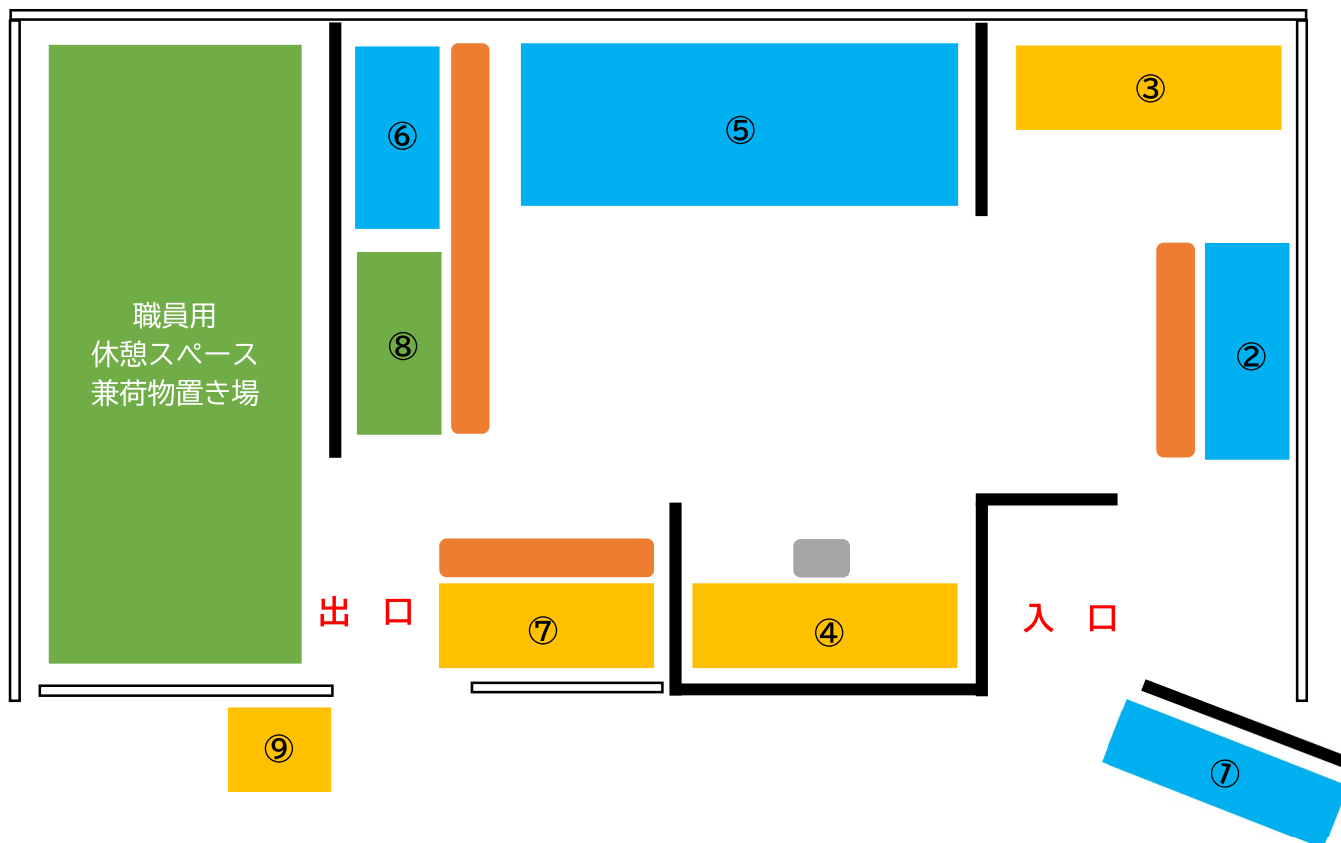
上下水道に関する災害時への備えの重要性等を周知することを目的とし、「2024 はんだふれあい産業まつり」に出展しましたので、下記のとおり報告します。

記

1. 実施概要

名 称	2024はんだふれあい産業まつり
出 展 者	半田市水道部（上下水道課職員各4名ずつ）
日 時	令和6年11月10日（日）10時00分～15時00分
場 所	半田びよログスポーツパーク
来場者数	749人※アンケート回答者数

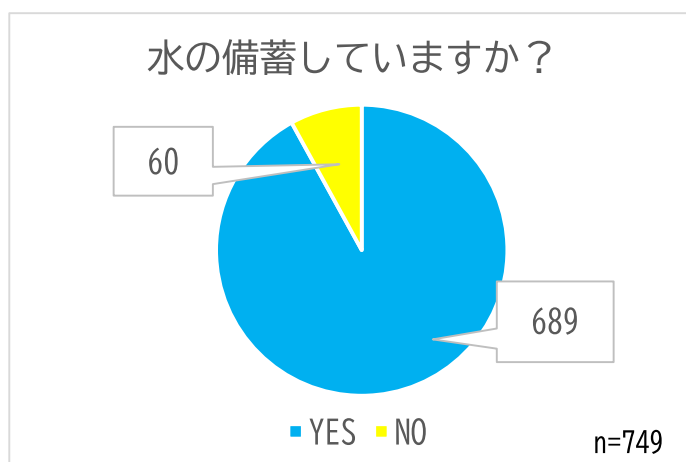
2. 会場レイアウト



- | | | | |
|---|----------|-----------------|--------------------------|
|  | …テント横幕 | ① …【上水】アンケート | ⑥ …【上水】水道事業紹介 |
|  | …パーティション | ② …【上水】水の備蓄について | ⑦ …【下水】汚水処理方法等 |
|  | …長机 | ③ …【下水】アンケート | ⑧ …【上下水】アンケート、
啓発物品配布 |
|  | …椅子 | ④ …【下水】災害用トイレ展示 | ⑨ …【下水】カプセルトイレ |
| | | ⑤ …【上水】能登派遣について | |

3. 内容

①【上水道課】アンケート



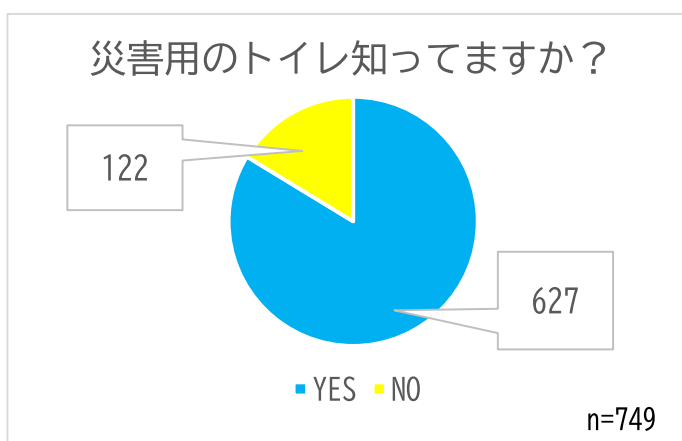
- ・シールの貼付によって回答をする方式のアンケートを実施した。
- ・「水の備蓄していますか？」という設問に対して、回答者 749 人のうち、「YES」と答えた人は約 92% の 689 人、「NO」と答えた人は約 8% の 60 人であった。
- ・上記の結果から、かなり多くの方が災害に備えて水を備蓄しているということが分かった。しかし中には、「一応備蓄しているが、期限が過ぎていると思う」「あるにはあるが、すぐ取り出せるところにない」という人も見受けられた。
- ・「NO」と答えた人からは、「必要なのは分かっているがなかなか…」「以前はあったが、期限が切れて使ってから買い足していない」という声が上がった。

②【上水道課】水の備蓄について



- ・災害時に必要な水の量などについて、実物展示を交え紹介した。
- ・来場者の多くは、「こんなにも必要だとは思わなかった」と驚きの声を上げていた。
- ・実物展示は、ペットボトル（中身無し）、ポリタンク（20L・6L）、給水袋（6L）を用意した。世代を問わず多くの来場者が持ち上げたり背負ったりして、災害時必要な水の重さや給水袋の利便性を実感する様子が見られた。

③【下水道課】アンケート



- ・『①【上水道課】アンケート』と同様、シールでのアンケートを実施した。
- ・「災害用のトイレ知ってますか？」という設問に対して、「YES」と答えた人は約 84%の 627 人、「NO」と答えた人は約 16%の 122 人であった。
- ・こちらも上水道アンケートと同様、市民の認知度は非常に高いことがうかがえる結果となった。
- ・来場者からは、「存在は知っているが、持っていないし使い方もわからない」「普段のトイレって使えないの？」などといった声上がり、続く『④【下水道課】災害用トイレ展示』への誘導としてかなり意義のあるものとなった。

④【下水道課】災害用トイレ展示



- ・マンホールトイレ、段ボールトイレ、便袋を使い方とともに紹介した。
- ・トイレの設置場所や組立方法などについて職員から説明があり、興味深そうに耳を傾けている来場者の姿がみられた。
- ・トイレはどちらも実際に座ることができ、来場者は使いやすさや頑丈さなどを実感していた。

⑤【上水道課】能登派遣について



- ・「被災地支援体験記」と称し、令和6年能登半島地震に職員を派遣し応援活動に参加したことを活かし、被災地の様子などを被災者・派遣職員のそれぞれの視点から紹介した。
- ・来場者は「被災者の声」「派遣職員の声」どちらも足を止めて見てくれたが、被災者側の視点はSNS等で簡単に入手できる一方で、応援側の視点は一般の方にとってはなかなか触れる機会がないため、じっくりと時間をかけて読んでいた姿が印象的であった。中には、職員に質問をしながら読んでくれる人もおり、能登半島地震が我々職員だけでなく一般市民にとっても関心のある出来事であったことがうかがえた。

⑥【上水道課】水道事業紹介



- ・水道事業の概要や歴史を紹介した。地震対策事業の説明として、ダクタイル鋳鉄管やポリエチレン管の実物展示（写真一番左）も併せて行った。
- ・また、今回は新しい試みとして耐震管模型の設置（写真真ん中）も行った。大きな地震が発生しても管が抜けないことを模擬的に体験できるもので、実際に管を引っ張る来場者の姿も見られ、関心を集めた。

⑦【下水道課】汚水処理方法等



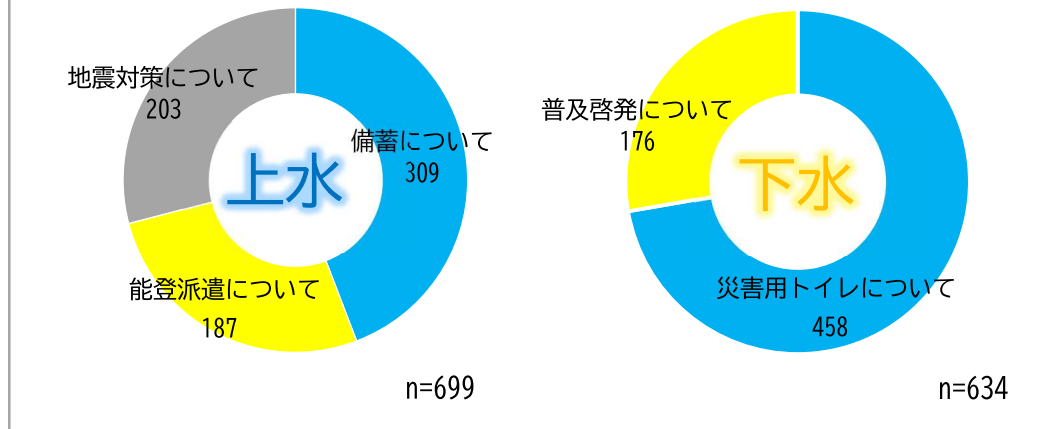
- ・カラーマンホールや公共汚水ます、汚水処理方法を簡易化して示した模型の展示を実施した。
- ・ますや模型は来場者が自身で開けて点検や清掃ができることの確認や、ボールを使って水の流れが理解できるようになっており、職員の説明に耳を傾けながら体験している様子が見受けられた。

⑧【上下水共通】アンケート、啓発物品配布



- ・最後に、来年度以降の出展の参考とすることを目的として、上水・下水の内容それぞれで最も印象的だった内容を問うアンケートを実施した。回答方法は『①【上水道課】アンケート』『③【下水道課】アンケート』と同様。
- ・選択肢は、上水が「1. 備蓄について」「2. 能登派遣について」「3. 地震対策について」。下水が「1. 災害用トイレについて」「2. 普及啓発について」。アンケート結果は以下のとおり。

一番印象的だった内容を教えてください



- ・上下水それぞれで印象的だったと回答した人が最も多かったのは、上水は「備蓄について」が309人、下水は「災害用トイレについて」が458人であり、来場者の防災意識の高さがうかがえた。
- ・上水は「能登派遣について」が187人、「地震対策について」が203人であり、下水は「普及啓発について」が176人となった。今回のアンケート結果は、来年度以降の出展内容の参考とする。
- ・『①【上水道課】アンケート』『③【下水道課】アンケート』と回答者数が異なるのは、上下水それぞれではなく5つの中で最も印象に残ったものを回答した人がいたため。職員のアナウンスや掲示の内容をもっとわかりやすくするべきだったという課題が見えた。
- ・また、水道部に対する自由意見を募る記入用紙も用意した。回答数は3のみだったが、貴重な意見として今後の事業運営の参考とする。内容は「上下水道の値段が高い」「いろんなところでPR活動をしていてステキです」「シールを貼るのが楽しかった」（内容一部抜粋）というもの。
- ・啓発物品の配布では、上水はあいちの水・啓発マグネット、下水はトイレットペーパー・クリアファイルを用意した。水とトイレットペーパーは午前中で在庫がなくなり、次回以降の配布数の参考としたい。

⑨【下水道課】カプセルトイ

- ・出口付近に下水の普及啓発活動の一環としてカプセルトイを設置した。内容はマンホールマグネットやトイレ消しゴムなど。
- ・ブース観覧後に楽しむ子どもの姿も多く見られたうえ、カプセルトイを目にしてブースに入ってくる来場者もいたため、人寄せとしても効果があった。

4. 総括

- 水道部として出展するのはR4年度以来の2年ぶりであった。前回の来場者が約1,200人であったため、今回の目標を2,000人に掲げ臨んだが、結果は目標の半分にも満たなかった。産業まつり自体の来場者も前回と比べて少なかったように感じるが、呼び込みにもう少し力を入れたかったところである。
- 出展内容については、上下水ともに前回の内容を見直したものや今年度より新たに取り入れたものがあり、より一層来場者の興味関心を引くことができるようにブラッシュアップされたように感

じた。また、職員の取り組み方としてもブース内で展示物や事業の説明を積極的に行う姿がみられ、ただ楽しいだけではなく水道産業を活性化させるような、産業まつりそのものの意義に沿った展示ができた。

○半田市水道事業は 2030 年に 100 周年を迎える。100 周年に向けて今後様々な場で PR をしていくつもりだが、今回の産業まつりがその第 1 歩となった（3. 内容『⑥【上水道課】水道事業紹介』）。これを皮切りに積極的に周知しアニバーサリーイヤーを盛り上げていきたい。

○9 月に開催した下水道課主催の単独イベントには小学生以下の子どもを中心に約 100 人が参加したが、今回の産業まつりではその 7 倍以上の来場者を数え、年齢層も幅広かったことから、広く周知できるという点で大変効果的であると感じ、今後の PR 方法を見直すよいきっかけとなった。

○半田市水道部は、これからも各種イベントや防災教室等への参加を通じて、より多くの市民の方々に上下水道事業の経営や重要性等について理解を得られるように努めていきたい。